



無電柱化に伴い地上に設置する配電地上機器を利用したストリートサイネージ。街並みに溶け込むラッピングが施されている(JR田町駅前)

JR 田町駅前ストリートサイネージ® 実証実験

JR TAMACHI STN. STREET SIGNAGE FEASIBILITY STUDY

配電地上機器を活用して デジタルサイネージで情報発信

パナソニックと東京電力グループは共同で、配電地上機器を活用した情報配信に取り組む smart street® projectを進めている。その一環として開発したのが、配電地上機器にサイネージを設置し、街中の情報発信として利用するストリートサイネージ。現在、東京都港区の協力のもとJR田町駅前の往来が多い歩道上にストリートサイネージを設置する実証実験*が行われている。田町駅前という立地を活かし、区政に関する情報や広報番組、地域イベントなどの情報を配信。さらに緊急災害時には、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語で警報や注意情報をリアルタイムに配信。2020年に向けた街中での情報配信の有用性検証が進められている。



配電地上機器(四角点線)の上に設置されたサイネージ。評価用センサは人流・顔検知システムで録画することなく画面を見ている人を属性も含めてカウントしている

*2018年4月～2019年3月まで(歩道上の実証実験は日本初)



震災復興伝承館の横に設置された避難情報伝達ポール(多機能街路灯)。災害時には背後の高台にある野蒜市民センターに避難誘導する

東松島市震災復興伝承館 避難情報伝達ポール

3.11 DISASTER RECOVERY MEMORIAL MUSEUM EVACUATION INFORMATION PAUL

緊急災害時には光と音で知らせ 情報を提供する避難誘導システム

東日本大震災によって東松島市野蒜地区ではJR仙石線が被災し、旧JR野蒜駅は3.7mまで津波で浸水。2015年に、JR仙石線は高台移転地を経由するルートに移設され、旧駅舎は東松島市震災復興伝承館として改修された。

今回、震災復興伝承館の横に設置された避難情報伝達ポール(多機能街路灯)は、通常は街路灯として機能し、Wi-Fi環境とともにデジタルサイネージで観光情報などを提供する。災害時にはフラッシュライトと避難誘導表示、音声により視覚・聴覚に訴えて安全な場所に誘導する。さらに、監視カメラにより遠隔から被災状況が把握できるため、危険な現地に行かずに情報収集と適切な対策が可能になると期待されている。



周囲は慰霊碑のある復興祈念公園として整備されている